

氏名	馬 詰 典 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3092 号
学位授与の日付	平成9年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Preoperative factors influencing effectiveness of surgery in adult strabismus (成人斜視の手術効果に影響を与える術前の要因について)
論文審査委員	教授 増田 游 教授 大本 堯史 教授 松井 秀樹

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

斜視手術の効果は、種々の要因の影響を受けることが知られており、精度の高い手術を行うためには、これらの要因を考慮して術量を決める必要がある。しかし、成人では、どのような要因が手術効果に影響を与えるか、十分に解明されていない。そこで、成人斜視の手術効果に影響を与える要因を重回帰分析を用いて検討した。対象は斜視眼の切除後転術を施行された手術時年齢 15 歳から 78 歳（平均 33.4 歳）の共同性水平斜視 179 例（外斜視 131 例、内斜視 48 例）である。手術効果（単位術量あたりの矯正効果；° / mm）を従属変数とし、性別、手術時年齢、術前の遠見眼位、視力、屈折度、術前の両眼視、斜視病型、網膜対応、術前のプリズム装用試験の結果等の要因を選び独立変数とした。手術効果は、内斜視、外斜視それぞれ、術後 1 ヶ月と 6 ヶ月で求めた。重回帰分析の結果、手術効果に有意な影響を与える要因は、術後 1 ヶ月と 6 ヶ月ともに、外斜視では、術前の遠見眼位と屈折度（等価球面度数）であり、内斜視では術前の遠見眼位と交代性上斜位の有無であることが判明した。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

斜視の手術効果に影響を与える術前因子を、精度の高い手術を行うために、手術効果を中心に検討した。対象は斜視眼の切除後転術を受けた外斜視 131 例、内斜視 48 例で、性別、手術時年齢、術前の遠見眼位、その他 9 要因を独立変数とし、手術効果（単位術量あたりの矯正効果）を従属変数として、重回帰分析を行った。術後 1 ヶ月と 6 ヶ月での手術効果をみると、有意な要因は、外斜視では、術前遠見眼位と屈折度、内斜視では術前遠見眼位と交代性上斜位の有無と解った。これは、斜視手術の臨床効果を上げるためにも重要な業績と認める。

よって、本研究者は、博士（医学）の学位を得る資格があると認める。